研究活動報告 Project 3

奥本　京子

プロジェクト３は 2014 年 11 月に活動を本格化させ、建設的・積極的なコミュニケーションのあり方を検討し、人間社会における関係性構築のための多様な形態について調査・研究を行ってきた。以下に、過去一年間の主な活動を列挙する。

＊ワークショップ「青年海外協力隊から開発教育のファシリテーターへ」
内容：青年海外協力隊は、日本政府によって開発途上国に派遣されるボランティアで、派遣国の国づくりに貢献する活動を行うことが期待されている。彼らの中には、日本に帰国後もその経験を活かし、国際協力にかかわる仕事をしている人が多い。青年海外協力隊員の経験を経て、現在は開発教育のファシリテーターとして活躍されている柳氏もその一人である。フィジーへ日本語教師として派遣された青年海外協力隊への参加経験において、さまざまな困難を乗り越えるために、コミュニケーション能力やファシリテーション能力がいかに重要性であったか、また、それが現在の開発教育ファシリテーターの仕事にどのように結びついているのかについて、具体例を交えながら話された。参加者は 20 名であった。

＊ワークショップ「ビジネスを通じて社会貢献 2017」
内容：株式会社マザーハウスは 2006 年に設立され、発展途上国におけるアパレル製品及び雑貨の企画・生産・品質指導、および同商品の先進国における販売を行っている企業である。バングラデシュ、ネパール、インドネシア、スリランカなどの途上国の生産者と先進国の消費者を結び付け、「途上国から世界に通用するブランドをつくる」という理念のもと、ビジネスを通じた社会貢献を行っている。先進国／途上国あるいは生産者／消費者という二項対立を超えたコミュニケーションを目指すマザーハウスの取り組みについて、特に、最近の事業展開としてのインドネシアの事例から学ぶことができた。伝統工芸である銀線細工の技術を利用したジュエリーを生産・販売する中で、伝統工芸の衰退や職人と小売店の関係などの問題をいかに解決していくか。参加者は 40 名であった。

＊研究会「ファシリテーション研究の課題を考える」
内容：「ファシリテーションとは何を意味するのか」について、ブレインストーミングしながら、今後の研究課題の列挙を行った。参加者は 4 人であった。

＊研究会「ファシリテーション研究の課題を考える（その２）」
内容：前回の研究会を受けてブレインストーミングしながら、今後の研究課題について議論した。共生のためのファシリテーションとは何か、公正な関係を構築するためのファシリテーションとはいかに可能か、について議論した。領域別（分野別）にファシリテーションへアプローチするとすれば、平和紛争学、教育学、心理学、経営学、言語（英語）教育学等が考えられる。「ファシリテーション」の歴史、先行研究等の確認から始まり、スキル・態度との関係、実践と研究の関係、日本における実践の経緯、ミクロ・マクロ各レベルにおける可能性、ファシリテーションの類型化等研究すべきことが多岐にわたることが判明した。今後、プロジェクト３としてどのように研究を展開していくか引き続き議論が必要である。参加者は３人であった。

＊講演・ワークショップ "Restorative Justice in Korea and Peacebuilding in Northeast Asia（韓国における修復的正義と東北アジアの平和構築について）"
内容：李在永氏は、修復的正義（RJ）、平和構築、紛争転換の領域に携わり、平和教育、RJ、メディエーションのトレーニングを学校・政府・NGO にて提供したりしてきた。ソウル家庭裁判所等での被害者と加害者のための和解のプログラムの韓国におけるファシリテーターの先駆者の一人でもある。今回は、韓国における RJ の試みの紹介に始まり、応報的（Retributive）正義と修復的（Restorative）正義の違いとその意味等、多岐に亘る実践例からワークショップ形式を交えて学ぶことができた。また、東北アジアにおける歴史的コンフリクトをめぐる和解や平和構築について、政情が変動する朝鮮半島を見据えて、日本の植民地時代から始まる歴史的背景についても復習しつつ、南北コリアの融和・友和・和解について考えた。政治・外交レベルの努力もさることながら、市民社会主体でできる活動が重要とし、教育・トレーニングの意義を、東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）の実践例から理解した。参加者は 51 人（学生・院生が 33 人、学内教員が 7 人、学外からの参加が 11 人）であった。

＊研究会「ストーリー（もの語り）が持つ意味：平和ワークにおいてファシリテーションが何をなしうるか」（プロジェクト１主催「第 67 回平和・人権研究会」、プロジェクト３後援）
内容：プロジェクト１参照のこと。

研究会開催報告

ファシリテーション・メディエーション研究（Project 3）

- 第 12 回　日　　時：2017 年 11 月 16 日（ワークショップ）
  講　　師：柳　博美　（公益社団法人）青年海外協力協会近畿支部・開発教育支援事業担当
  タイトル：「青年海外協力隊から開発教育のファシリテーターへ」
  後　　援：キャリアサポートセンター
- 第 13 回　日　　時：2017 年 11 月 29 日（ワークショップ）
  講　　師：濱口　香織　株式会社マザーハウス 梅田蔦屋書店 店長
  タイトル：「ビジネスを通じて社会貢献 2017」
- 第 14 回　日　　時：2018 年 2 月 28 日（研究会）
  ファシリテーター：奥本　京子　大阪女学院大学教授、前田　美子　大阪女学院大学教授
  タイトル：「ファシリテーション研究の課題を考える」
- 第 15 回　日　　時：2018 年 3 月 14 日（研究会）
  ファシリテーター：奥本　京子　大阪女学院大学教授、前田　美子　大阪女学院大学教授
  タイトル：「ファシリテーション研究の課題を考える（その２）」
- 第 16 回　日　　時：2018 年 5 月 28 日（講演・ワークショップ）
  講　　師：李　在永　コリア平和構築インスティテュート院長／
  東北アジア地域平和構築インスティテュート事務局長
  タイトル：「韓国における修復的正義と東北アジアの平和構築について」
- 第 17 回　日　　時：2018 年 6 月 13 日　（研究会）
  報 告 者：奥本　京子（大阪女学院大学 教授）
  タイトル：「ストーリー（もの語り）が持つ意味：平和ワークにおいてファシリテーションが何をなしうるか」